

都市再生整備計画(第2回変更)

いちのみやえきしゅうへん ち く
一宮駅周辺地区

あ い ち け ん い ち の み や し
愛知県 一宮市

令和8年3月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	☐
都市再生整備計画事業	☐
まちなかウォークアブル推進事業	☒

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	愛知県	市町村名	いちのみや 一宮市	地区名	いちのみやしゅうへんちく 一宮駅周辺地区	面積	221.5 ha
計画期間	令和5年度～令和9年度	交付期間	令和5年度～令和9年度				

目標
大目標：人が主役となる豊かな日々の生活を実現するまちづくり、都市の多様性・生産性の向上によるまちのアップデート 目標1：民と官の多様な連携・共鳴による可能性豊かなまちづくりの創出 目標2：車から人が主役となり歩きたくなる空間の創出と回遊性向上 目標3：駅周辺のまちなかにある公共空間及び民間空間における都市空間全体再編
目標設定の根拠
まちづくりの経緯及び現況 ・当地区は、38万都市・一宮市の中心部に位置し、地場産業である繊維産業を中心に発展してきた「せんいのまち」一宮市の中心市街地として機能してきた。また、駅はJR尾張一宮駅と名鉄一宮駅をあわせ、1日およそ9万人の乗降者数を有し、バス、タクシーなども集中する交通結節点となっている ・駅の周辺には銀座通りや本町通りなどに主な商店街が集積しており、尾張西部の商業の中心地として発展し、にぎわってきた。しかし、昨今の車社会の進展に伴い、郊外に大規模集客施設や沿道型店舗の立地が進み、中心商店街の購買力・集客力の衰退、大型店の閉鎖や空き店舗が増加するなど衰退傾向が顕著となっている。それとともに、中心市街地の住居人口の減少も著しい状況にあったが、近年、駅周辺や中心市街地にマンション立地が進んだことにより、人口減少は緩和されつつある ・尾張一宮駅周辺を含むおよそ300haの地区では、戦災復興の土地区画整理事業が実施され、公園、道路等公共施設が整備され現在の街区が形成されている ・JR尾張一宮駅と名鉄一宮駅については、連続立体交差事業により鉄道の高架化が実現し、鉄道による東西の分断が解消され、踏切事故や交通渋滞の解消など交通の円滑化、東西交流の促進に寄与している。この連続立体交差事業の進展にあわせ、さらなるまちづくりを推進していくため、景観形成を図り、機能的な都心空間を形成するための都市軸として、国道155号など中心市街地の主要な道路を整備し、電線地中化にも積極的に取り組んできた ・平成24年から平成26年にかけては尾張一宮駅前ビル（iビル）の整備と各種公共施設（図書館等）の集約、一宮市役所本庁舎の整備により、都市機能の集約を図ってきた ・一宮駅周辺を【都市拠点】として位置付け、高次の都市機能を集約し、都市拠点と他の拠点を結ぶ公共交通ネットワークの維持及び更なる充実をすることで、多拠点ネットワーク型都市を形成し、人・モノ・情報の交流を促進する ・令和2年度から道路、駅前広場、公園及び駅前ビル等の都市アセットをリノベーションすることにより、民と官の多様な連携・共鳴による可能性豊かなまちづくりを進め、居心地が良く、歩きたくなるまちなかを創出する、ウォーカブル空間デザインプロジェクトに着手した ・市政100周年を迎え、かつ中核市に移行した令和3年度には、これからの100年のまちづくりを見据え、社会実験「ストリートチャレンジ2021」により一宮駅前・銀座通り・本町通り・葵公園・夢織り広場などの駅周辺の公共空間の開放し、まちなかの公共空間の利活用、ベンチ等の設置による滞在環境の向上を進めており、今後さらなる取り組みを官民連携により進める予定 ・令和4年3月には、中心市街地において長年まちづくり活動を実施してきたNPO法人志民連いちのみやが都市再生推進法人の指定を受け、民間のまちづくりの取り組みも積極的に推進する予定 ・令和4年8月には、様々な地域でご活躍をされている有識者の方々や、地域で積極的に活動されている実践者の方々と構成する「一宮駅周辺地区デザイン懇談会」を実施し、一宮駅周辺地区の未来デザインのあり方についてとりまとめを行う
課題
・JRと名鉄の両方の駅を有する一宮駅は、名古屋駅や岐阜駅から鉄道で約10分と至近であり、リニア整備によりまちなか居住だけでなく業務・商業への波及も期待できるが、人流は駅利用や乗り継ぎのみに留まっている傾向が強く、エリア全体に人の流れを生み出せていない。 ・商店街をはじめとして空き地・空き家・遊休地や低未利用地・平面駐車場が増加し、生活利便施設が減少しており、都市のスポンジ化が懸念されている。 ・真清田神社や大江川の桜などの多様な地域資源があり、一宮市の顔となる中心市街地でありながら、日中の滞在人口が少なく、昨年の市民アンケートでは79%が一宮駅周辺ににぎわいを感じないと回答している。
将来ビジョン（中長期）
①「一宮市第7次総合計画」（R2～R12）（令和2年度策定） ・「木曽の清流に映え、心ふれあう躍動都市 一宮」を都市将来像とし、5つのプランと2つのマネジメントで構成 ・マネジメント1 施策2訪れてみたいまち、交流が盛んなまちをつくる ・リニアインバクトやiビルの整備効果を活かした民間開発促進 ②「第2期一宮市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（令和2年度策定） ・「トカイナカ」で子育てにやさしく安心して暮らせるまち～木曽川が育む自然と名古屋から10分の利便性を活かしたまちづくり～とし、5つの基本目標にて構成 ・中心市街地の活性化によるにぎわいのある魅力あるまちの創出 ・歴史・文化など地域資源を最大限に生かした魅力あふれるまちの創出
③「一宮市都市計画マスタープラン」（R2～R12）（令和2年度策定） ・将来都市像：都会の利便性と田舎の豊かさが織りなす、だれもが住みよいまち～多拠点ネットワーク型都市の構築～ ・都市機能の集積を図るとともに、まちなか居住を推進する都市拠点として位置づけ ・地域別構想における方向性：尾張地域の中核都市である本市の「顔」となるにぎわいあふれるまちづくり ・銀座通り沿線におけるオープンスペースなどのゆとりある空間づくり ・緑化の推進：市民や地域との協働による真清田神社周辺における緑・歴史・文化的な資源の有効活用 ④「一宮市立地適正化計画」（R2～R22）（令和2年度策定） ・高次のな都市機能の集積を図る都市機能誘導区域として位置づけ ・商業と居住の複合化によるにぎわいやまちなか居住を促進 ⑤「一宮市緑の基本計画」（R2～R12）（令和2年度策定） ・一宮駅周辺のまちなか空間を「車中心」から「歩行者中心」の空間への再構築を図る ・まちなかの緑化を推進することで、人々が集い、交流し、多様な活動が繰り広げられる場の創出・利活用

一体型滞在快適性等向上事業及びまちなかウォーカブル推進事業の計画

滞在快適性等向上区域の考え方

- ・尾張一宮駅と市役所新庁舎、真清田神社を拠点として、シンボルロードである銀座通りと本町通り、鉄道高架を軸として一体的に中心市街地を形成しているエリアを滞在快適性等向上区域に設定し、地区全体で公共空間と民有地のオープンスペース化を進め、官民一体となった交流・滞在空間の創出により、居心地がよく歩きたくなるまちなかの形成を図る。

滞在快適性等向上区域での取組

- ・銀座通りにおいて、市が歩道の拡幅による高質化(広場化)を行うことにより、ゆとりがあり歩きやすい歩行者空間を創出する。
- ・本町通りにおいて、市がベンチ等の設置により、歩行者が憩いの場となる滞在環境の向上を行う。
- ・沿道商店や空き家利活用時に1階部分をガラス張り化、空き地のオープンスペース整備等により、歩行者等にくつろぎの場を提供する。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
歩行者交通量	人／8時間	銀座通り・本町通りの歩行者の合計	回遊性の向上、魅力ある滞留空間、官民一体となった賑わいある歩行者空間の創出することによる歩行者数	5,897人	R4年度	7,076人	R9年度
中心市街地の印象	%	中心市街地が「居心地が良い」と感じる人の割合(アンケート)	回遊性の向上、魅力ある滞留空間の創出による中心市街地及び歩行者空間の満足度	36%	R2年度	43%	R9年度
空き店舗・高架下再生・活用	件	空き店舗・高架下を再生・活用した件数	新たなにぎわいや魅力を創出する空き店舗や高架下を再生・活用の件数	0件	R4年度	2件	R9年度
居住人口	人	一宮駅周辺地区の居住人口	官民連携の施策により、「居心地がよく歩きたくなるまちなか」が形成されることによる居住人口	17,758人	R4年度	18,000人	R9年度

計画区域の整備方針	
目標1:民と官の多様な連携・共鳴による可能性豊かなまちづくりの創出 ・イベント開催など、日常的に人々が集う公共空間の創出 ・遊休資産の再生や利活用による新たな魅力創出やエリア価値の向上	【基幹事業】計画策定支援事業:グランドデザイン計画の策定 【基幹事業】滞在環境整備事業:公共空間利活用社会実験 【提案事業】地域創造支援事業:空き店舗再生・活用調査 【提案事業】地域創造支援事業:鉄道高架下活用調査
目標2:車から人が主役となり歩きたくなる空間の創出と回遊性向上 ・多様な利活用が行える空間づくりによる歩行者の利便性・まちの回遊性の向上 ・商業施設等と歩道空間が一体となった都市空間の魅力的な演出 ・憩いや待合い等のための滞留空間の整備 ・デジタル技術を活かした交流拠点にふさわしい情報提供機能の充実化	【基幹事業】計画策定支援事業:グランドデザイン計画の策定 【基幹事業】高質空間形成施設:銀座通り、千歳通り 【基幹事業】高質空間形成施設:本町通り 【基幹事業】滞在環境整備事業:公共空間利活用社会実験
目標3:駅周辺のまちなかにある公共空間及び民間空間における都市空間全体再編 ・市内公共施設の資産管理	【基幹事業】計画策定支援事業:グランドデザイン計画の策定 【協定制度等】銀座通り・本町通りでの定期市の開催や広告板等の管理運営
その他	
【官民連携体制】 ・対象地区で各種まちづくり事業を実施してきたNPO法人志民連いちのみやが都市再生推進法人に指定(令和4年3月) ・地域の特性や資源を活かしたまちづくりを推進し、地域が主体となるまちづくり活動により、地域コミュニティの醸成や地域経済の活性化を図る ・令和4年6月に官民一体でまちづくりを推進するエリアプラットフォーム「一宮まちなか未来会議」を設立している ・令和4年8月に有識者の方々等で構成される「一宮駅周辺地区デザイン懇談会」を実施し、未来デザインのあり方について意見交換をしている	
【官民協働の取り組み事例】 ・一宮市、銀座通商店街振興組合、本町通一丁目・二丁目・三丁目・四丁目商店街振興組合、NPO法人志民連いちのみやが共催でまちなかの公共空間利活用のための社会実験「ストリートチャレンジ2021」を実施(令和3年10月～11月) ・一宮市主催、一宮まちなか未来会議が共催、都市再生推進法人志民連いちのみやと一宮市まちづくり部都市計画課が事務局でまちなかの公共空間利活用のための社会実験「ストリートチャレンジ2022」を実施(令和4年8月～3月) ・中心市街地の将来像検討のため、未来デザインワークショップを開催し、市民参加によるまちの将来像検討を実施している	
【事業完了後の継続性、人材育成、維持管理費の低減】 ・都市再生推進法人やエリアプラットフォームを中心に定期的なイベントを開催し、賑わいの創出、商業の活性化を推進することで、地域の商業施設等の積極的な利用を促進し、新たな雇用や市場の創出につなげる ・社会実験を通じまちづくりの新たな担い手の発掘を図るとともに、新たな都市再生推進法人となり得る団体の育成を行う ・まちの外で活動し個別分散化している担い手を、まちなかとの接点をつくり、つなぐことで、エリアプラットフォームの充実化や新たなまちづくり団体の創出を図る ・地下駐車場や銀座通りなどの公共施設を民間の活力を活用した管理運営を行う	
【重点的に取り組むテーマ】 ・民間目線での空間づくりや民間の活力を活かした公共空間の管理運営など官民連携に基づくまちづくり ・銀座通り(上部・下部)を中心とする大胆な都市空間再編 ・銀座通り、本町通り、高架下空間などの道路や公園など公共施設や公有地等の利活用 ・エリア内にある遊休資産である空き店舗の利活用や鉄道高架下の活用	
【都市・地域総合交通戦略への明記】 ・一宮市総合交通戦略において、当計画で推進するまちなかウォーカブル推進事業は下記のとおり位置づけられている。 基本方針Ⅳ《まちなか》居心地がよく「+1トリップ」してしまう 魅力と回遊性を備えたウォーカブルな空間と アクセシビリティの高い交通体系の構築 将来都市像実現のための施策・事業 戦略Ⅳ-1:交通施策とまちづくりの連携 施策 2 まちなかの快適な移動環境・滞在空間の構築 ①居心地が良く歩きたくなるまちなかの形成 ②歩道の高質化と滞在空間の整備 ③多様な交通に対応した道路空間の再構築	

様式(1)-④-3

(金額の単位は百万円)

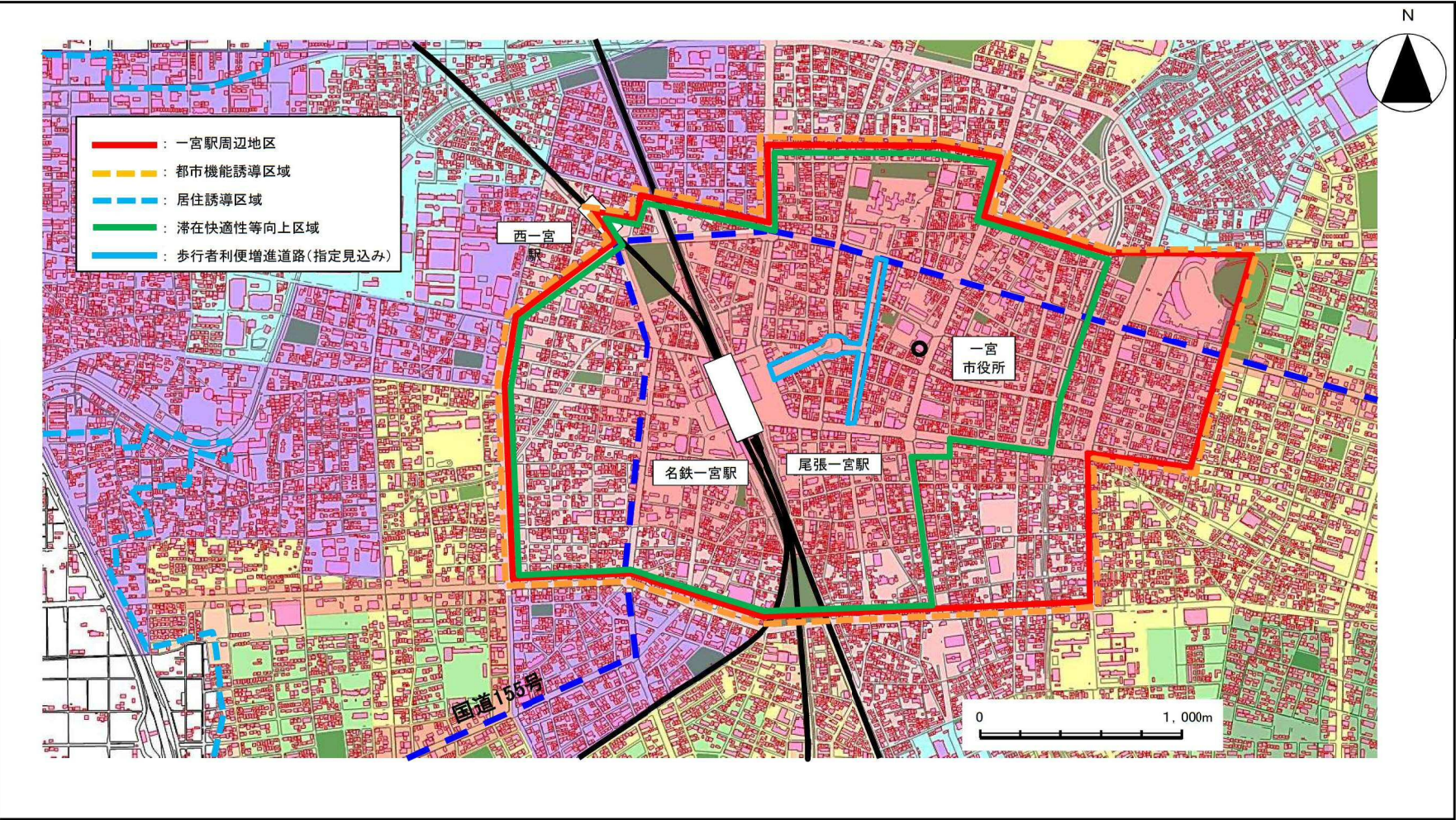
...A

...B

(参考)都市構造再編集中支援事業関連事業

(参考) 関連事業

一宮駅周辺地区(愛知県一宮市)	面積	221.5(106.8) ha	区域	一宮市本町1～4丁目、栄1～4丁目、新生1～3丁目、八幡1～2丁目、神山1丁目、平和1丁目、野口1～2丁目、明治通5丁目、本町通8丁目、公園通3丁目、大志1～2丁目、石山町、川田町5丁目、大江1～3丁目、桜1丁目、松降1丁目、真清田1丁目、大宮1丁目、天王1丁目の一部、松降2丁目の一部、真清田2丁目の一部、大宮2丁目の一部、北園通1～5丁目の一部、中町1丁目の一部
-----------------	----	-----------------	----	---



一宮駅周辺地区(愛知県一宮市) 整備方針概要図(まちなかウォーカブル推進事業)

目標	大目標: 人が主役となる豊かな日々の生活を実現するまちづくり、都市の多様性・生産性の向上によるまちのアップデート	代表的な指標	歩行者交通量	人/8時間	5,897人	R4年度	→	7,076人	R9年度
	目標1: 民と官の多様な連携・共鳴による可能性豊かなまちづくりの創出		中心市街地の印象	%	36%	R2年度	→	43%	R9年度
	目標2: 車から人が主役となり歩きたくなる空間の創出と回遊性向上		空き店舗・高架下再生・活用	件	0件	R4年度	→	2件	R9年度
	目標3: 駅周辺のまちなかにある公共空間及び民間空間における都市空間全体再編		居住人口	人	17,758人	R4年度	→	18,000人	R9年度

